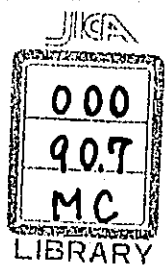


海外医療協力委員会  
プロジェクト選定に関する専門部会  
第1回議事録

昭和49年10月3日

国際協力事業団医療協力部



国際協力事業団		
受入 月日	'84. 5. 23	000
登録No.		90.7
	07015	MC

PG  
2.5  
K

## プロジェクト選定に関する専門部会(第一回)

- 議 題 単発専門家派遣の取り扱い方針について
- 日 時 昭和49年10月3日(木曜日)  
自 午後0時30分 至 同2時

○開催場所 医療協力部会議室 JICA LIBRARY

○出席者



1015369[0]

### 委員側

- (委員長) 佐々 学 東京大学医科学研究所教授
  - (委員) 重松 逸 造 国立公衆衛生院疫学部長
  - 竹内 正 日本大学医学部教授
  - 本多 憲 規 福島県立医科大学教授
- なお、多ヶ谷委員は海外出張中のため欠席。

### 幹事側

- 柿沼 事務官 外務省経済協力局技術協力第二課  
医療班長
- 工藤 事務官 外務省経済協力局技術協力第二課  
医療班

### JICA医療協力部側

- 長尾医療協力部担当理事
- 後藤医療協力部長
- 斎藤 一 課 長
- 吉本 二 課 長
- 橋浦, 鈴木, 小林, 海保職員

JICA医療協力部は、当新事業の発足に伴う規約等改正との関係で、海外医療協力委員会各委員に対する正式委嘱は未了ではあったが、上記議題が当医療協力部にとり重大かつ焦眉の問題であるとの認識に基づき、口頭にて理事会及び総務課双方の承認を取付け、同委員会委員長佐々学氏にプロジェクト選定に関する専門部会の招集を特に依頼し、ここに第一回協議会を開催した。

なお本案件は、旧OTCA当時の本委員会プロジェクト選定に関する専門部会第三回協議会（昭和49年7月16日開催）において、その中心議題の一つとして討議が加えられたのであるが、今回は更に内容を詰めるべく第一に医療協力部の現状及び本案件が持つ重要性の認識を行ない、第二に要請事項の具体例を取り上げこれに分析を加えるという手順を踏襲し、本案件の取り扱いに対する基本原則を打ち出すに至った。

結論は、本協議会の主宰者である海外医療協力委員会プロジェクト選定に関する専門部会諸委員、外務省経済協力局技術協力第二課医療班、及び実施方医療協力部（含医療協力担当理事）の三者が本協議会にて到達したその合意点を示す。

下記はその議事要録である。

#### A. 問題の所在

佐々委員長の開会挨拶に続き、後藤医療協力部長より本案件が医療協力部に対して持つ意味、及び事の重要性について説明がなされた。その趣旨は概ね次のとおりである。

##### 1. 現状認識

1) 医療協力部はその発足時よりプロジェクトベースにて事業を推進

するとの基本姿勢を持つものであり、それゆえプロジェクトベースに乗らない医療協力関係の単発専門家派遣はこれまで原則として行なわず、止むを得ない事情のあるものに限定し、予算の枠内で実施処理されてきたのである。

2) 医療協力部が現在実施している「大学教授の公開手術等派遣費」による単発専門家派遣事業も上記の綱要の枠内に明確に位置づけられている。その位置づけとはすなわち、医療協力部の「大学教授の公開手術等派遣費」予算は、協力終了・協力実施中・並びに協力予定の医療協力プロジェクト事業に関連し、あるいは付帯する支援（派遣専門家及び現地カウンター・パートに対するブラッシュ・アップあるいは指導等のための単発専門家派遣）が必要ありと認められているため予算獲得がなされているのであり、プロジェクト事業をより効率的に推進するために充当されるものであるということである。

3) 上記の1)および2)の事由に基づき、医療協力部は単発専門家派遣に要する予算要求はしておらず、したがってまたそのための人員も配置されていない。

4) 現在実施しているプロジェクト事業の推進は、現職員数の下では必ずしも十分であると云い難い。

#### 2. 問題の重要性

上述のような現状において本案件に安易に着手した場合、その反ばり影響は深甚であろう。

それは予測されるだけでも、

1) 業務量の増大等により内部体制に混乱をきたし、現在のプロジェ

クト事業の推進を悪化させる恐れがあること、

2) 今後急激な増加が予測される本案件に着手した場合、それが現在の「大学教授の公開手術等派遣費」になし崩し的に割り込み、もってプロジェクト事業の推進を停滞させる懸念があること、またこのことについてはすでに相当程度現実化しており、対策が急がれる所以であること、

3) プロジェクト事業に無関係の単発専門家が派遣された場合、医療協力事業全体に対する関心及び知識等の不足から相手国側の要請を容易に確約してくるようなことがあり、これは医療協力部が主体的に行なっているプロジェクト・ファイナディング等の将来計画に対する大きな阻害要因となる場合が多く、結果的には医療協力事業の今後の方向に重大な影響を及ぼさずにはおかないこと、

等のデメリットが考えられうる。

#### B. 要請事項の分析及び討議

医療協力部本事務局より開発途上国（主として中南米地域）からの単発専門家派遣要請案件が回覧され、それが主として学会出席のための派遣要請であること、及びプロジェクト方式の事業と結びつき難いということ、が指摘された。

また上記Aの2の3)と絡めこれをより詳しく考察するために本年度実施済及び実施予定の「大学教授の公開手術等派遣費」による別紙単発専門家派遣計画一覧表を具体例を示す参考資料として配布し、諸委員の討議を提案した。

## 1. 単発専門家派遣についての外務省当局の見解

なおここで、本案件に対する外務省当局の見解が、私的な見解も含まれるとの留保条件つきで柿沼事務官より披瀝された。その趣旨は次のとおりである。

### 1. 要請が出される背景

(1) 相手国の学会が正式経路を通じて要請してくるもの

これに先立ち、外務省当局は医療協力事業の趣旨にそぐわないような要請はできるだけJICAベースから除外するよう指示している。しかしながら

(a) 在外公館側は、任国において自己の任務ともいうべき両国の親善・友好関係にどれだけ貢献しうるかとの立場より、学会出席のための単発専門家派遣要請をこれに対して益するところが多大であるとして、また、

(b) JICAで実施しているプロジェクト方式の事業以外の研修員受入れ事業との関係で、帰国後の彼等に対する新技術その他の伝達教授等指導のためということから、

要請を受理しこれを外務本省に送付してくる。

(2) 相手国学会等と何らかの接触をすでに持っている専門家が相手国との直接的な連絡にて合意し、それを政府ベースにのせてくるもの

2. 対処状況

(1) 医療協力事業の趣旨から遙かにへだたっているものについては、ことわる。

(2) 文化事業関係分野の派遣要請は文化事業部局にて取り扱うよう

折衝努力をしているが、難行の状態である。

- 3) 受理した案件においてはJICAの専門家派遣費の予算の枠内及び同医療協力部の「大学教授の公開手術等派遣費」予算の枠内で派遣実施を検討し、これを実施している。

## II 討 議

出席諸委員は、上記Aの2の〔問題の重要性〕に鑑み、また外務省当局者の見解を考慮し、専門家の立場から次のような指摘をした。

純然たる学会出席のための派遣要請に対する公的機関による派遣として、

- 1) 文部省及び関係諸機関が実施するもの
- 2) 科学技術庁が実施するもの
- 3) 国際交流基金の予算を用いて学術会議が推薦し、派遣実施されるもの

の三つの基本的なカテゴリーが存する。

また純然たる学会出席のための派遣としてではないが

- 4) 国際協力事業団ベースのもの  
(a) 派遣事業部が実施するもの
- (b) 医療協力部の「大学教授の公開手術等派遣費」予算により実施されるもの

の単発専門家派遣がある。

医療協力部の「大学教授の公開手術等派遣費」による単発専門家派遣事業を上記BのIIの1)、2)および3)による派遣のいわばぬけ道として考えられる恐れもあり、これは問題視せざるをえない。当委員会は本案件に対する対処方針を下記C結語の1)のように定立するよう、こ



ここに提言する。

C. 結 語 (委員会の提案)

1. 単発専門家派遣に対する対処方針の基本原則

国際協力事業団医療協力部は、単発専門家派遣に対する対処方針の基本原則として、当部が実施しているプロジェクト事業関係のための「大学教授の公開手術等派遣費」による単発専門家派遣事業以外は、これを実施しないものとする。

ただし将来医療協力プロジェクト事業として考慮される可能性のあるもののうち、海外医療協力委員会プロジェクト選定に関する専門部会諸委員による選考 (Screening) を経て推薦 (Recommendation) されたものにつき、予算の範囲内で派遣できるものとする。

2. 次回の協議会に関して

次回の協議会は11月下旬に開催する。

以 上

(別紙) 単発専門家派遣計画一覧表

番号	派遣国	派遣(予定)者	派遣時期	目的
*1	ブラジル	中村 恭一 (がん研究所) (主任研究員)	47.8.28 ↓ 49.7.22	ブラジル病理学会での 講義指導 (クリチーバ大学) (マリリア大学)
*2	タイ フィリピン	黒岩 義五郎 (九州大学教授)	47.7.24 ↓ 49.10.6	サント・トーマス大 学及びラマチ病院に て多発性硬化症およ びその他の難病につ いての講演会開催
*3	インドネシア	塩沢 正俊	47.8.4 ↓ 49.9.3	マルサハバダン病院 にて公開手術開催
4	アルゼンチン	西沢 護 (千葉ガンセンター) (放射線診断部長) 萩原 恭祐 (同 医 師)	49.11.15 ↓ 49.12.11	胃腸学会主催講習会 開催

番号	派遣国	派遣(予定)者	派遣時期	目 的
5	ペル ー	山田達哉 (ガンセンター) (放射線科部長)	49. 11. 20 ↓ 49. 12. 25	ペルーがん研究所に 研修診断学指導
6	エルサルバドル	中山 恒明 (東京女子医大) (教 授)	11月末より 約3週間	中米癌学会出席
7	エクアドル	鈴木 茂 (東京女子医大)	50. 3. 13 ↓ 50. 3. 30	胃腸病学会医師国際 研修会出席

注：※印についてはすでに実施済である。

2:00 pm  
自啟信了畢 恭 丁 巳